

吉野興産

ルート重視で収運効率化

車両長寿命化、コストダウン

三重県津市に本拠を構え、建設系廃棄物を中心とした中間処理、中部から近畿、関東地域までを舞台に産業廃棄物の収集運搬事業を展開する吉野興産（三重県津市、光友勝美社長、☎059・255・0770）は、産廃

処理の受け入れ量を着実に拡大する一方、収集運搬業務の効率化に取り組みを進め、成果をあげている。

同社では従来、エリア別に運転手を配置していたが、ルート重視に転換した。これにより、隣接地で仕事が生じた場合、所定コースの延長線上で集荷を効率的に行えるようになった。

三重県津市から南の地域での集荷については現在、伊勢自動車道が国土交通省の行う「2010年度 高速道路無料化社会実験」の対象となっているため、積極的に利用しコスト削減および搬送時間の短縮につなげている。

収集運搬を担当するドライバーは集荷業務以外に空き時間を利用して選別作業も行っている。回収した金属スクラップの売却益は、選別作業に携わった従業員に分配される。

新規に運搬車両を購入する際は、運転手の意見を取り入れた架装が施され、納車となる。結果的に運転手は各自



各車両は、架装に工夫が施されている

の車両への愛着心が増し、整備にも神経を使うので長寿命化につながり、会社としてはコストダウンを図れているという。

なお、同社は産業廃

棄物処理業者優良性評価制度に基づく基準適合認定への取り組みにも注力している。これまでに、▽三重県産業廃棄物処分業（06年12月21日）▽三重県産業廃棄物収集運搬業（07年3月23日）▽三重県特別管理産業廃棄物収集運搬業（08年8月29日）——ほか10自治体で基準適合の認定を受けており、今後も拡大していきたい考えだ。